



副代表幹事
資本効率の最適化委員会 委員長
志賀 俊之
日産自動車
取締役副会長

日本は自前主義から脱却できるか？

「自前主義を排し、オープンイノベーションを推進しよう」
そういわれて久しい。私が会長職を務める産業革新機構も、その設立の趣旨に「オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を創出する」とある。「自前主義から脱却して産学連携を推進しよう。協調領域にある技術は産官学連携で標準化を進めよう」。これらは使い古された掛け声であるが、いまだに大きく前進しているように思えない。日本のイノベーションランキングが低下しているといわれるが、研究開発費の絶対額ではいまだ世界トップレベルにある。これは一体どういうことなのだろうか。イノベーションにつながらない研究が企業や研究機関で行われているということなのか。私は、日本の民間企業の横並び主義にも原因があると考え。将来性が高いと見込まれる技術は、多くの企業が並行して、かつ各社の企業秘密として研究開発が行われる。例えば、バイオ燃料技術は十数社が個別に研究開発している。こうした新技術は、量産化の段階で巨額投資する海外企業にコストで負け、日本発の技術でありながら競争に負けることにならないだろうか。

3月中旬に米国・シリコンバレーを訪れる機会があった。多くのスタートアップ企業との面談の傍ら、スタンフォード大学や大手IT企業も訪問した。現地では、日産自動車も公道走行試験を行う自動運転車にも試乗した。そこで痛切に感じたことは、この地域全体がオープンイノベーションであるということだ。社会や顧客のニーズに対するソリューションをみんなで考える。そのためお互いの技術が活用できないか日常的な情報交換がなされる。そこで企業や大学の垣根なく、規模の大小問わずにコラボレーションが起こる。日産自動車の自動運転技術もアメリカ航空宇宙局(NASA)と提携している。日本でも、自動運転車の実用化に向けて精度の高い地図作りやセキュリティ技術の研究開発など、8分野で産官学が連携して取り組む方針が打ち出された。米国IT系企業も交えて熾烈な開発競争が繰り広げられることが予想される自動運転技術だが、その協調領域において日本の自動車メーカー各社が連携する意義は大きい。オープンイノベーションの良い手本になることを期待したい。

No.787 April 2016 経済同友会 4

C O N T E N T S

特集 1

全国経済同友会との連携・活動
東日本大震災
追悼シンポジウム

02

特集 2

2016年度事業計画

15

Doyukai Report

アフリカ委員会 米国ミッション報告書概要 19
「国連アフリカ・ウィーク」関連セッションに参加
アフリカの未来の可能性と課題を探る

中国委員会 中国ミッション報告書概要 21
中国の経済実態と内陸部・武漢の現状を調査
今後の民間交流促進の可能性を探る

被災地出張授業
社会人として「いい人生」を送るために 23
日比谷 武 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長
富士ゼロックス 顧問

Seminar

第1263回 会員セミナー 25
IoTの光と影

—日本企業が直面するサイバーリスクと世界の最新セキュリティトレンド—
齋藤 ウィリアム 浩幸 氏 インテカー 取締役社長

第148回 TCERセミナー 26

アベノミクスの政治経済学

—抜本的改革の提案—
井堀 利宏 氏 政策研究大学院大学 教授

Column

巻頭言 志賀 俊之 01
「日本は自前主義から脱却できるか？」

リレートーク 昌子 久仁子 27
「それでもゴルフはやめられない」

福島に“ほんとの空”が戻る日まで 28
～福島大学FUREの挑戦～ 仲井 康通 氏
「福島県双葉地域の現状と抱える課題」

私の思い出写真館 水越 さくえ 30
「それは『井戸端会議』から始まった」

新入会員紹介 29

今月の表紙：シリーズ国花
【スズラン／フィンランド】

バラ、ジャスミンと並び香りが強いスズラン。5月1日スズランの日はフランス発祥のイベントで、愛する人やお世話になっている人にスズランを贈ります。